

化学・生物総合管理の再教育講座

(実施期間：平成16～20年度)

実施機関：お茶の水女子大学（代表者：増田 優）

課題の概要

化学物質総合管理や生物総合管理について基礎的な素養を身に付けると共に、国際水準のリスク評価とリスク管理を行いうる人材を養成することを目的とした。

具体的には、化学物質や生物の総合管理に必要な知識について、全体的枠組みをカバーしたカリキュラムとするため、分野（化学、生物等）、レベル（基礎、中級、上級）及び講義の性格（概論、詳論、各論（ケーススタディ等））の観点から体系的な科目構成を計画した。産業界、研究・専門機関、シンクタンク、NPO 及び学会・他大学と連携し、実社会で必要となる様々な実務経験を豊富に有する専門家により、教材開発と講義を計画した。人材養成は講義やケーススタディーによって行うこととした。開催日は土日や年2回の短期間集中講座（1科目15モジュールを3日間で実施）等を活用して、社会人・企業人が受講しやすい日程とすることとした。

（1）総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

化学・生物総合管理の観点から国際水準のリスク評価とリスク管理の知識を有し実施する人材の養成は、時代背景にも合致し、重要な課題である。多くの社会人に対する再教育の場として、自由に科目を選べるシステムの構築や、「知の市場」の体系化、他大学とも提携した展開など、この取組が継続・発展している点は評価される。

一方で、中間評価においても指摘されたように目標とする養成人材像を達成するための方策、履修モデルの例示などが十分なされていないことが懸念される。今後、「化学物質や生物のもたらすリスクを総合的に管理しうる人材」の養成に当たって、体系だったカリキュラムの提示や、「知の市場」として多数の組織が実施するに当たっての各講座のレベル、整合性の確保等について検討することが望まれる。

<総合評価：B>

（2）個別評価

①目標達成度

幅広くバラエティーに富んだ科目を開講するとともに、受講生自ら履修科目を選択できるシステムを採用し、総合的で実践的な学習機会を提供した実績は評価される。また、所期の養成目標人数に比べて極めて多くの被養成者を輩出した点は、本課題の社会的ニーズの高さを証明しているものと評価される。以上により、所期の目標に達していると評価される。

一方で、4科目以上履修した修了者は目標人数を上回っているが、1、2科目のみという履修者が全体の多数を占めており、基礎素養として受講したケースも多かったと推測され、リスクを総合的に管理・評価し得る人材の養成という趣旨に照らし合わせてカリキュラムと実施方法を分析し、改善に取り組むことが望まれる。

②人材養成手法の妥当性

他大学や企業等から幅広い分野の専門家が講師として参画し、実社会での経験を活かした現場視点の教育を実施し、5年間で延べ221科目（年平均44科目）を開講するなど、実施内容は充実

していると評価される。1科目のみの受講も可能なことや履修科目を自由選択できる等の手法によって、多くの修了者を輩出している点も、一定の評価に値する。以上により、人材養成手法は妥当であると評価される。

今後の継続的なプログラム実施に際して、養成プログラムの体系化、養成従事者の組織的対応、養成従事者人材の育成について再度検討することが望まれる。

③人材養成の有効性

5年間で延べ221科目（年平均44科目）を開講し、他大学や企業等、各界の専門家が講師として教育に参画した点は評価される。また中間報告で指摘された継続性に関しては「知の市場」なる構想に展開され、各大学などにおいて連携活動が始まっており、波及効果が大きいと評価される。以上により、人材養成の有効性は妥当であると評価される。

今後、目標としたプロフェッショナルが養成されたのか、十分な検証をすることが望まれる。

④実施計画・実施体制及び継続性・発展性の見通し

共通の理念・スキームに基づいた「知の市場」という他大学・機関と提携した拠点として、各機関それぞれが社会人の再教育プログラムを実施しており、養成人数も増加している点は評価される。継続性・発展性の確保が期待できると評価される。

今後、多数の組織が実施するにあたり、各機関の独自性と拠点全体の統一性、各講座のレベル等、整合性の確保を図ることが望まれる。

⑤中間評価の反映

科目毎に受講修了証を交付していたが、4科目以上の修了者に対しては履修証明を取得できる体制を整えるなど、中間評価における指摘は反映されていると評価される。

一方で、被養成者のバックグラウンドや到達レベルに対応した履修モデルの例示という指摘への対応はより一層の取組が望まれる。履修モデルの例示をすると共に、他機関との提携による本プログラムの拡大を資格認定制度へつなげることが期待される。

(3) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	人材養成の有効性	実施計画・実施体制及び継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
B	b	b	b	b	b